

令和3年12月15日
熊本市中央区本山1丁目6-9 白木ビル3F
特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会
代表理事 中島久美子



熊本放送文化振興財団 御中

実績報告

熊本県子ども劇場 50周年記念事業 特別鑑賞会 前進座 創作歌舞伎「牛若丸」「歌舞伎の楽しさ」
開催日時：2021年12月5日（日）15時開演
会場：熊本県立劇場 演劇ホール
参加者 465名（大人 292名・子ども 170名 ご招待3名：熊本県2名・熊本市文化政策課1名）

くまもと子ども劇場 50周年特別企画として取り組みました。子ども劇場会員の OBOG も駆け付けて下さり、50周年にふさわしい事業となりました。

牛若丸を実現できたことは これからの子ども劇場の力になると思います。日本の伝統芸能である歌舞伎を子どもたちに知ってほしいというメッセージもインパクトがありました。事前に早瀬さんの講演会を企画したり、前進座と九州の子ども劇場がオンラインでつながって練習場を見せてもらったり、役者さんたちの意気込みを聞かせてもらい 交流できて取り組みに弾みがつきました。

熊本県文化協会・熊本放送文化振興財団から周年事業の助成を受けられたこともあり、参加費収入だけでは足りない経費をまかなうことが出来ました。

<作品のまとめ>

「歌舞伎の楽しさ」舞台裏の様子や演出効果など分かりやすく解説されていた。テンポ良くストーリー仕立てで表現されて良かった。舞踊「藤娘」も、とても綺麗だった。子どもたちもじーっとしっかり見ていた。「牛若丸」話す言葉がちゃんと分からなくても、観ている中で言いたいことが伝わり情緒溢れる演技が素晴らしかった。あざやかな衣装・舞台演出・迫力ある役者の演技すべてが揃っていて、歌舞伎初心者や子どもたちにも分かりやすい題目だったと思う。熊本県立劇場演劇ホールに本花道をつくり、そこを登場人物が通る様子を見ているだけで圧倒される雰囲気だった。最後、牛若丸が去っていく「飛び六方」は最高に素晴らしかった。客席の子どもが真似している様子も嬉しく感じた。

<参加者の感想>

○まるでお正月気分でした。

所作の説明が前もってあり、わかりやすく、とても歌舞伎に親しみがもてました。いつも子どもたちのいきいきした姿を見るのも楽しみのひとつです。ありがとうございました。

○5年前に観た「牛若丸」と比べ、しっとり落ち着いた舞台に思いました。雪月花の舞台は見事で、最後牛若丸が颯爽と花道を去っていく姿に涙が出ました。「歌舞伎の楽しさ」も女形のことが特に知識として得られ、体はきつくてしんどいだろうに女性らしく振る舞うってすごいなと感心しました。

○想像していたものより、ずっと本格的だし、迫力もあってびっくりしました。特に弁慶が登場するシーンが迫力もあってすごかったです。

○けしょうがおもしろかったです。

○子ども、初心者にもわかりやすい解説つき。子どもが興味を持てる演出で歌舞伎がより身近になりました。ありがとうございました。

12/5 当日の様子



<収支報告>

(収入の部)

(単位：円)

費目	金額	内容
参加費	1,216,000	大人 3000 円×292 子ども 2000 円×170
助成金	550,000	熊本放送文化振興財団 200,000 円 熊本県文化協会 150,000 円 公益信託 熊日文化スポーツ基金 200,000 円
その他	298,805	会運営費より
合計	2,064,805	

(支出の部)

(単位：円)

費目	金額	内容
諸謝金	1,320,000	劇団前進座 創作歌舞伎「牛若丸」公演料
会場費	341,880	熊本県立劇場演劇ホール
会場付属設備費	45,250	
旅費	205,170	宿泊代 180,000 円 市内交通費 25,170 円
食費	80,400	12/5 2,750 円×24 名 小夜食 600 円×24 名
印刷製本費	72,105	チラシデザイン料含む
合計	2,064,805	



「牛若丸」配役の紹介

牛若丸	玉浦有之祐 (旭屋・あさひや)
弁慶	渡会元之
藍物太郎頼方	嵐市太郎
平広盛	上滝啓太郎
郎党一	和田優樹
郎党二	石嶋隆生
平宗清	松浦海之介
常磐御前	早瀬栄之丞 (白鷺屋・しらさぎや)
僧上坊実は鬼一法眼	松涛喜八郎



あらすじ 三幕

伏見の里

雪の場

いまから八百年ほど昔。世の中は源家と平家にわかれて争っていました。源義朝の妻、常磐御前はわが子牛若丸を連れて逃げているところを捕らえられてしまいます。しかし平宗清は、情けをかけて母子を逃がしてやるのでした。

五条橋

月の場

何年か後、京の都で謎の美少年が夜毎五条橋に現われ、早業で人の刀を奪い取るとの噂が流れます。実はこの少年こそ牛若丸。噂を聞きつけた武蔵坊弁慶は、懲らしめるために牛若丸に斬りかかりますが、降参し、二人は主従となります。

鞍馬山

花の場

その後も、鞍馬山で剣術の稽古に励んでいた牛若丸は、大天狗僧正坊から、平家に打ち勝つための兵法書の一巻を与えられます。牛若丸は、その一巻を手に弁慶を伴い、勇躍して陸奥へと旅立つのでした。



助成：熊本県文化協会
 熊本放送文化振興財団
 公益信託 熊日文化スポーツ基金

くまもと子ども劇場五十周年特別企画
劇団前進座公演

創作歌舞伎

牛若丸

併演 歌舞伎の楽しさ

主催 特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会
共催 一般社団法人 劇団前進座 くまもと子ども劇場
後援 熊本県 熊本市 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 合志市教育委員会
菊陽町教育委員会 益城町教育委員会 熊本県文化協会 熊本日日新聞社
NHK熊本放送局 RKK TKU KKT KAB FMK FM791

祝 辞



熊本県知事 蒲島 郁夫

熊本子ども劇場50周年、誠におめでとうございます。また、記念事業として創作歌舞伎「牛若丸」併演「歌舞伎の楽しさ」が公演されますことを、心からお慶び申し上げます。

昭和47年の発足以来、子どもたちの文化芸術活動への参加促進、地域の文化芸術環境の創造を進め、子どもたちの豊かな心の育成に努めておられることに深く敬意を表します。

本公演を通じて、子どもたちが伝統芸能の「歌舞伎」に触れることで、日本の伝統文化をより身近に感じ、豊かな感性と創造性を育む良い機会になるものと思います。

文化芸術は、人々に感動や生きる喜びをもたらす人生を豊かにするものです。同時に、社会全体を活性化する上で大きな力となるものであり、果たすべき役割は重要です。度重なる自然災害と、新型コロナウイルスの感染拡大により厳しい状況に直面している本県にとって、文化芸術の力は危機を乗り越える原動力になると確信しています。

今後とも、皆様の活動を通じて、熊本県の文化振興にお力添えいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本公演の御盛会と熊本子ども劇場のますますの御発展と御活躍を祈念申し上げます。



熊本市長 大西 一史

熊本子ども劇場が発足50周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

熊本子ども劇場におかれましては、1972年の発足以来、舞台鑑賞や地域、自然の中での体験活動、地域公演の開催など、様々な活動を通して子どもたちの生きる力を育ててこられましたことに、深く敬意を表します。

このたびの記念事業である創作歌舞伎『牛若丸』は、観賞した子どもたちが将来、生の芝居、ひいては日本の伝統文化を支えていくことを期待しての公演と伺っております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な公演やイベントが中止や延期を余儀なくされるなど、市民の皆様の生活に深刻な影響が及んでおります。

このような状況の中、人々が心豊かな生活を送るためには文化芸術に触れる様々な機会が必要であると考えており、皆様方におかれましては、引き続き本市の文化振興にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。結びに、特定非営利活動法人熊本子ども劇場連絡会の更なるご発展と関係者の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



熊本県立劇場 館長 姜 尚中

熊本子ども劇場50周年特別企画の開催を心からお喜び申し上げます。

文化活動を通し、子どもたちの感性を豊かにし、創造性を高め、そして生きる力を育むためのみなさまの半世紀にわたる取り組みは、地域に大きな活力をもたらす、郷土の発展に貢献してこられました。まずは、その永年にわたるご尽力に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で社会は一変しました。

これまで人々が触れあい、人間らしさを味わってきた空間や時間が奪われ、喜びや感動を共有することが困難になりました。とくに、豊かな個性や人間性を形成するために必要な「遊び」を奪われた子どもたちの心の問題は今後の重要な社会課題といえます。

この課題に対し、芸術文化は極めて重要な役割を担っており、人々に感動を与え、人間らしく生きるための大きな力をもつと考えています。

今後もみなさまの活動を通し、次代を担う子どもたちが健全に成長し、地域が活気にあふれていくことを期待するとともに、貴劇場の益々のご発展とご活躍を祈念申し上げます。

ごあいさつ

本日は、くまもと子ども劇場50周年特別企画 創作歌舞伎「牛若丸」にご来場いただき、ありがとうございます。

熊本子ども劇場は、1972年に誕生し、来年2022年3月に満50歳を迎えます。発足時から、子どもたちの豊かな成長を願い活動を続けてきました。

長きにわたり、たくさんの方々に支えられ、応援していただいたことがつながり、本日の「牛若丸」公演を行うことができました。心より御礼申し上げます。

これまで、子ども劇場は、子どもにとって生の芸術体験と遊びが欠かせないものであることを伝え、実践しながら進んできたという歴史があります。

社会状況の変化とともに、子どもを取り巻く環境も大きく変わっています。

昨年から広がった新型コロナウイルスの影響で、子どもたちは、学ぶこと、遊ぶことが制限され不自由な生活を強いられることになりました。子どもたちの生きる力は、人とのかわりの中からはぐくまれます。これからも、安心して自分を表現できる居場所をつくっていきたいと思います。これは、大人の役割です。

牛若丸少年は、平宗清、武蔵坊弁慶や大天狗僧正坊との出会いによって、その生き方が輝き、物語が広がっていきます。

日本の伝統文化である歌舞伎は、理屈抜きに楽しめるエンターテインメントです。

その美しさ、迫力、軽妙さ、奥深さを、わくわくドキドキしながら最後までごゆっくりお楽しみください。

特定非営利活動法人 熊本子ども劇場連絡会
代表理事 中島久美子

